

京都府議会全員協議会 質疑概要 2013年5月21日

浜田議員発言と答弁

1、京都府の対応について

【浜田議員】まず、この間の知事の発言に関わって、理事者に確認したい。

3月22日に行われた防衛省の佐藤政務官と山田知事との会談で、知事は「安心・安全の面は、私どもが住民に対して責任を負うわけであり、この点について納得がいかない限り、前へ進む気はない」と述べています。この「納得がいかない」の主語は誰ですか。当然、地元住民をはじめ京都府民だと思いますが、そういう理解でいいですか。

【中野総務部長】知事としての発言なので知事。府民の代表として要望を踏まえて発言していると考えます。

【浜田議員】知事も府民を代表している、私ども府議会議員も含めて京都府民、とりわけ地元住民の不安や疑問が払拭されないまま、知事が判断するようなことは絶対にないように強く求めておきます。その点確約してもらえるか。

【中野総務部長】適切に判断したい。

【浜田議員】知事は、4月17日の車力基地の視察後に「Xバンドレーダーに詳しい学識経験者、専門家を参与として任命する」と述べた。まもなく4名が任命されるとのことだが、これら専門家による意見は、どのように反映されるのか。

【中野総務部長】あくまでも防衛省から協力要請されているので、府としても要請に応えるか判断をする。それにあたり特に専門性の高い知見が府にはございませんので、専門家の参与の方からご意見をたまり最終的には府の判断に反映をさせていくと考えている。

【浜田議員】青森県車力基地の場合も、県は有識者を入れた検討会をもち、その答申を受けて知事はOKを出したという経過がありました。その有識者の中には防衛庁と自衛隊幹部OB2人、レーダー建設に関わっている三菱重工から1人となっていた。そういうものにならないように。

2、レーダーそのものの影響について

【浜田議員】次に、安心・安全についていくつか質問する。

レーダーの周波数帯がスピード違反取締等にも使われているもので、「熱被害以外の健康被害はない」と説明されましたが、電磁波による健康被害が心配であり、出力の大きさが問題。4月2日の政府交渉の際にもたずねたが、「レーダーの性能がわかるので出力は明らかにできない」との答弁だった。京丹後市での住民説明会でも、「出力はわからない。スピード違反の取り締まり装置と比較して検証し、ご理解いただけるよう説明したい」という答弁をしている。どれぐらいの出力になるのか、明らかにしてもらえないのか。

【榎賀近畿中部防衛局企画部長】レーダーの場合は出力と周波数のふたつ。周波数の場合はBS。問題は出力ですが、先ほど具体的にはレーダーの照射面が約150メートル離れた地上での電波の強さは10センチほど離れたトランシーバーからの電波と同程度なんですよ、と先ほどもお話させていただきました。

【浜田議員】出力をめぐっては、Xバンドレーダーのメーカーのカタログなどによると、出力が1メガワット～1.5メガワットだと判断できるのですが、そうすると、500ワットの電子レンジを2千台から3千台並べることになるのですが、今言われたようなそんな程度の出力なのか。

【小野防衛政策局企画官】いま企画部長からお答えしたように出力そのものについては、レーダーの性能に関わることなのでお答えは差し控えさせていただきます。レーダーを開発するにあたって技術的、科学的データを踏まえて必要な基準というものを設け、その中で熱との関係は考慮しないとイケないということで、一定の安全係数もかけた上での立ち入りの制限区域ということをお設けておるわけでございまして、その範囲にはいらない限りにおいて健康への影響はない。安全係数をかけた上というのをご理解いただきたい。

【浜田議員】電磁波による健康被害は非常に不安があってスピード違反の取り締まりにつかわれているレー

ダーと同じだというのですけれども、たとえばアメリカのコネチカット州の警官がスピードガンを使用したために癌になったということで、労災補償を請求されてコネチカット州やサンディエゴ市、フロリダのセントピーターズバーグ各市の各警察ではスピードガンの使用禁止する処置をとったという話もあるわけです。電磁波による健康被害は不安なので専門家の知見を生かしていただきたい。

3、ドクターヘリへの影響について

【浜田議員】次に経ヶ岬でも、青森県車力基地と同様、海側の半径6キロ、高度6キロの半円柱が飛行制限区域になると言われています。経ヶ岬周辺では、ブリやアジなどの定置網漁がさかんであり、間人ガニの漁場もあります。ドクターヘリの飛行区域とも重なります。これらに影響が出ないのかお聞きします。

【桝賀企画部長】農産物等の被害はございません。なぜなら、生物以外には熱を発しない。このレーダーが上空に打ちますので、海面から約20メートル以上のところ。そういうところにはレーダーは行きません。電力の話していえば仮にもし車力でやっていたら鳥が焼き鳥になってしまう。絶対にそういうことはございません。

【浜田議員】上空に向けて照射するということですが、ドクターヘリについては、ヘリポートは内陸部にありますけれども、海側から入ってくるとなれば影響がでてくるとおもわれるのですが、とくに冬場とか風がきつい時には、海側から入らざるをえなくなるのおもいますがどう対応されますか。

【桝賀企画部長】急患輸送、おっしゃるとおり今のレーダーの内側に場所があるのですけれども、外から入るとなると、その場合、米軍がどうするのかということは米軍と調整中です。車力では実際に止めた経緯もあります。そこは米軍がしっかり対応をしてくれと思っています。

【浜田議員】緊急事態の時に、人命なのか防衛なのか対立するときがあると思うが、そういうときに人命を最優先するというので必ず止めると、確約できるのですか。

【及川近畿中部防衛局長】ドクターヘリの運用について、急患輸送あるいは海難救助の事態が発生した場合には、それに備えましてレーダーの緊急時の停波も含めた柔軟なヘリの運航を可能とするような措置を、米側、関係機関と調整したうえで、「調整要領」というものをつくりまして万全な対応を取るよう調整してまいります。

【浜田議員】ドクターヘリ問題については調整中ということでは、不安があると思います。車力と経ヶ岬では条件が全く違います。健康被害や電波障害は車力ではとくに起こっていないと繰り返し言われますが、経ヶ岬でそれが起こらない保証はどこにあるのかということですか。

4、環境アセスメントについて

【浜田議員】環境アセスメントについてはこの間、「環境アセスメントは、法令上求められておらず、車力でもしていない」と言われるが、現在世界中でXバンドレーダーが配備されているところを見ると砂漠の真ん中であつたり、車力のように森の中であつたりとか、今回の経ヶ岬のように住民の生活や生業の場にこれだけ近い所に配備するのは初めてではないか。しかも、住民のみなさんから様々な不安の声が出ているのだから、環境アセスメントが必要ではないか。

【小野防衛政策企画官】環境アセスそのものについては法令上特に義務付けられておらないので、我々としては本件についての環境アセスということについては現時点でやる考えはございません。

米側においてもレーダーを開発するにあたって様々な要素を考慮して飛行区域の利用の関係ですとかあるいは健康への影響あるいは騒音とかこういった観点、様々な所見を踏まえて問題がないという観点を確保したうえで配備を行うということで、基本的にはそれをもって我々としては了解している。

【浜田議員】安心だというのなら、住民に安心してもらうためにも、環境アセスをやるほうが住民の安心になるのではないか。

【小野防衛政策企画官】基本的には必要な項目というのは確認をされている。その中でわが方において特に法的に国内において義務ないということでこれについて環境アセスは新たにやる考えはございません。

【浜田議員】この点、京都府にもおききたいのですが、車力でも、青森県自身がから環境アセスの実施を求めたという地元新聞社の記者の話もあるのですが京都府として、環境アセスの実施を求めないのですか。

【中野総務部長】防衛省がやらないということであれば、特段こちらから求めることはできない。
（「けしからん」の声）

5、切実な水の問題について

【浜田議員】それでは住民の不安は払しょくされないと思います。先ほど異議員も言われましたが、水の問題住民説明会でも繰り返し不安の声がだされていて、1日5万リットルもの水を使うということで、あの地域でもだいたいそれくらいの量が使われているのですが、同じ量が使われるということで相当不安がひろがっている。5万ℓの水は何につかうのか。

【小野防衛政策企画官】米軍からは基地の運営に必要な米軍は基地の中に居住するという計画なので、生活水ということで承知をしている。

【浜田議員】生活用水だけですか。冷却などに使うとかは。

【小野防衛政策企画官】基地の運営ということでそのなかには機材の維持・整備こういったものも含まれている。

【浜田議員】そういうことになると、先ほど言われたように使用量を減らしてもらおう要請しているというが、できないと思うのです。しっかりと調整しないと住民みなさんの不安は払しょくされないがどうか。

【小野防衛政策企画官】冷却水、その他についても極力たとえばリサイクルできるものはしてもらおう。基地内で居住している米軍人の生活用水その他については極力節約をしてもらおうよう申し入れをしている。

【浜田議員】ちょっとの節約では住民のみなさんは不安だ。

6、配属される米軍について

【浜田議員】最後に、配属される米軍関係についてお聞きする。防衛省は、配属される米軍関係者について、「160名程度であり、民間企業の技術者が多数を占めるものと聞いています」と説明しています。しかし、青森の車力基地では、100人の要員のうち60人が、民間軍事会社「シェネガ社」から派遣された警備員だと聞いている。4月2日の防衛省交渉の際に、そのことをただしたら、「技術者は数十人」との回答があった。「それなら、『技術者が多数』ではなくて、警備員が多数になるのではないか。実際に160人の米軍関係者の内訳を明確にしてもらわないと住民は不安です。どうなのか。

【及川防衛局長】配属される人数につきましては詳細に米側から示されておりません。したがって、米軍、民間人がどれくらいか、あるいは警備員はどれくらいかは申し上げられない。恐縮でございます。

【浜田議員】民間軍事会社の警備員は元軍人が多いと聞いているので実際にどういう人がどれくらいくるのか住民は関心高い。京丹後市の住民説明会で、住民から沖縄のような犯罪事故がおきないか心配という声に対して、しっかり教育をされると言われていますが、沖縄はじめ全国の部米軍基地周辺や米犯罪や事故が後を絶たない。いくら人数が沖縄と比べ160人と少ないからといってそれで安心だとはみなさん思っていない。しっかりと対応していただきたい。

最後に、今日は、府議会に対して初めての説明の場であり、住民の不安や疑問について、十分払拭されていません。最初にも強調したように、京都府民、とりわけ地元住民の不安や疑問が払拭されないまま、知事が判断するようなことは、絶対にならないように、重ねて求めて、質問を終わります。

光永議員発言と答弁

1、配備計画の目的について

【光永議員】弾道弾を捕捉するレーダーは警戒管制レーダーFPS-XXが政府によりすでに配備されていると聞く。今回の米軍によるXバンドレーダーは弾道弾に特化したレーダーと聞いている。その追加配備の理由は、これまでと比べ北朝鮮の10000キロメートルにもおよぶ長射程弾道弾をとらえる必要性があるからか。それを主な目的としているのか。

【小野防衛政策企画官】先ほど他の議員のご質問にもお答えしましたが、具体的にこういった種類のレーダー、どこに向かってミサイルを捉えるかというのは、これはレーダーの性能等に関わりますので、個別具体的な内容というのはお答えを差し控えさせていただきたいが、あくまでもこれはわが国の防衛にとっても非常に有用であると。当然それはまた日米の協力という観点においても有用であるということで、わが国の安全保障に非常に有効なものであるということをお知らせさせていただきたい。

【光永議員】詳細は解らない、公表を差し控えるということだが、昨日行われた京丹後市議会の全員協議会を観ていると、防衛省の説明の中では10000キロメートル長射程となるものを北朝鮮が開発をするおそれがあるので今回配備をするという説明があったと思います。10000キロメートルを超えるという長射程となると、これは正に日本というよりはアメリカ本土あるいはグアムなどに対象になるというようにどう考えても思う。今回、アメリカが京都府内にはじめて配備をすることになるのだが、米国防総省ミサイル防衛庁が発行している『A Historic Beginning』という雑誌がありますが、そこでアメリカが今回Xバンドレーダーを開発した目的について述べている。そこでは「多目的の前方展開移動型Xバンドレーダーは、大陸間弾道ミサイルと中距離ミサイルの脅威から米国を防衛するという国家目標にかなうように開発され、配備される」と書いている。これについては、承知しているか。

【小野防衛政策企画官】昨日の京丹後市の全員協議会でお答えした北朝鮮のミサイルの射程10000キロ云々という、議員が言及された部分につきましては、正に北朝鮮がこういった長射程のミサイルを開発しているといったことで、技術力が非常に向上している。これは正に比較的射程の短いわが国に飛来するおそれのある様な弾道ミサイルについても当然そういった技術というのは応用可能であって、それがわが国に対して非常に脅威であるという事を申し上げたというふうに認識しています。

アメリカのミサイル防衛庁の『A Historic Beginning』については、個別具体的に中身について私は承知をいたしておりませんが、いずれにしてもアメリカとしてレーダーの開発の目的、米国のレーダーの開発の目的そのもの、それはあくまでもTPY-2レーダーというのはアメリカのミサイルの防衛システムの一部をなしているということは事実でございますが、必ずしもその射程がこういったものを念頭においているかということまでは公表してないというふうに認識しています。

【光永議員】先ほどの京丹後市での説明は、そういう主旨であるということはお解っている。しかし、長射程のもの、精度が上がっているということは、やはりそこに対する危機に対するアメリカの対応ということが根本問題だということをお『A Historic Beginning』でも元々言っているのだから、それについても細かく承知していないということでは、承知しておいて頂かないと困るわけです。なぜなら、私も日本共産党の高橋ちづ子議員が国会で質問主意書を出した時に、この具体的な事例をあげて、「それについて承知しているのか」と聞いたら、防衛省の質問主意書に対する答弁を私は全て読みましたが、ここに「承知しております」と書いてあるのです。これは当然同じ立場だということですね。

【小野防衛政策企画官】承知していないというのは、私個人が今この時点においてその部分まで承知をしていないということで、防衛省としての立場はどうかということは、私も質問主意書の中身を個別具体的に今、正確に思い出せませんが、それは防衛省が答えたものが防衛省あるいは政府の対応ということでございます。その中身が今議員がおっしゃられた内容かどうかということも含めて、私は今、この時点では個別具体的なものを持ち合わせておりませんので、その部分については答えを差し控えさせていただきたいと思っております。

【光永議員】防衛省としてはそういうふうにお答えされますので、そういう意味ではアメリカが自国を防衛するという国家目標をかなえるため、長距離弾道ミサイルの脅威から守るためのものであるというふうに明確に述べているということなのです。同時にヘーゲル国防長官も同様に述べているので、そういう意味では先ほどの防衛省の説明ですと、あたかも日本の防衛に資するという話になっているが、今回の配備計画というのは、根本的な性格を考えるとアメリカが求めているのは正にアメリカの本土防衛であり、アメリカの世界戦略の性格をもつ。だからアメリカが日本に配備する。こういう性格であるということだと思います。

その際に再度お聞きしますが、2012年9月の会談で、日米両防衛首脳が追加配備する方針で一致したというのは報道でもありましたし、ホームページにも出ております。その時の共同記者会見を見ると、当

時のパネッタ国防長官は「米国本土を北朝鮮のミサイルの脅威から防衛する能力を共有させる上で効果的になります。」と述べている。アメリカ本土防衛に日本が協力するという性格と言えると、どう読んでも思えるが、そういう性格ではないのですか。

【小野防衛政策企画官】 あくまでもご説明しているように、わが国の防衛、それから日米防衛協力の観点等をふまえて、これがわが国に必要なだと、有効であるという認識のもとでレーダーも配備するし、わが方としてもぜひともこれは国内に二基目の配備が必要だというふうに考えているところです。

【光永議員】 日米防衛協力上必要だとなると、これはやはりアメリカの防衛に日本が協力するという性格で配備されるということがいよいよ浮き彫りになったというふうに思いますし、これは非常に問題だということをご指摘しておく。

2、住民の安全について

【光永議員】 山田知事と佐藤政務官がやり取りされた時に、山田知事が、高性能の有効なレーダーであれば複数発射にも対応できる、攻撃される可能性が高まるのではないかというふうにおっしゃったと思います。それに対し、その場におられた防衛省の地方調整課長が「米国の対応であり、それへの攻撃については大きな抑止力が働く」と述べられたと書いてありました。

現在 11 カ所の F P S 官制レーダー、そして X バンドレーダーが青森県に 1 カ所、その他イージス艦などもある。今回、高性能レーダーが配置されることになると防衛する対象が増えるという理解でよろしいですか。

【及川防衛局長】 攻撃対象が増える仮定として、防衛の対象が増えるか、経ヶ岬に入るか。実は、経ヶ岬については既に航空自衛隊の経ヶ岬分屯基地が配備されています。それに隣接して今回、米軍基地を増設しようというものでございますので、そこに防護については、まさに自衛隊、米軍、そこを配置するなかで対応していくとともに、どういうふうに防護していくかということも含めて対応が考えられていくと思っております。

【光永議員】 ですから、知事がおっしゃっていることだが、高性能なレーダーであれば攻撃対象になるのだから、それについては当然、新たに米軍基地が来た場合にはアメリカも日本も新たな対応をするということが、結局は防衛対象、あるいは攻撃対象ということになるではないか。再度お答えください。

【小野防衛政策企画官】 相手国がどこをどう攻撃をするのかということについて、これは最終的に相手国の意図によるわけであり、我々としてここが危ない、ここが安全だということは申し上げられないわけですが、一方で、我が国として様々な情報を収集しながら最も最適な形で部隊を配備をし必要な体制をとることであり、特に新たに配備される場所が確実に危険が高まるとか、あるいは無い場所は絶対に安全だとか、そういったことはあくまでも個々の状況の中で、相手との関係の中で決まって行くことであり、我々は必要な情報収集をし、警戒態勢をとり、さらに必要な部隊配備をし、万全の態勢で国を守っていくということなのです。

【光永議員】 今のお話にもありますように、結局どこが狙われるかは解らないけれども、しかし新たに在日米軍基地が増えるということになってしまえば、それは正に対象になる可能性が高まるということは明らかかなわけですね。だから丹後の安全が直接的な問題として「守られるのか」ということに対する不安が高まるのです。そこは、このまま配備していくというのは問題だということをご指摘しておきます。

具体的にお聞きますが、車力の例では、軍隊経験がある者、あるいは退役軍人等が含まれて警備会社等におられるのかどうかその点は把握しているのか。

【小野防衛政策企画官】 具体的な警備会社について、どういった者が雇用されるのかということについては我々は個々の人間の経歴その他をいちいち照会しているわけではございませんので、それはやはりプライバシーの問題その他いろいろあるかと思いますが、あくまでも雇用会社において彼らの中の基準において、最も最適と思われる人間を雇用しているということであり、我々はあくまでも事件防止などについては全

体として米側に対してきちんと申し入れをして、米側として対応してもらうということに尽きると思っています。

【光永議員】これは個別照会したことがないのか、したけれども答ええないのか。したことがないということなのか。するつもりもないということなのですか。

【小野防衛政策企画官】具体的に米側とどういうやりとりをしているかの詳細についてはお答えを差し控えさせていただきたいと思いますが、個別具体的な個々の警備員の経歴等については、我々としては照会をする考えはございません。

【光永議員】そこは個々に経歴を明らかにしろと言っているわけではなくて、住民のみなさん方が丹後でもいろんな不安を感じられる。そういう場合はやはり前方で展開してきた人物が退役して来るというのであれば、それはそれで特段の不安があるということになるわけです。そういう意味では、しっかりと説明を求めるときではないか。求めておく。

3、今後のテンポについて

【光永議員】今後の日程問題について、去る4月29日の日米防衛相会談で、Xバンドレーダーについて「日米双方が、引き続き緊密に連携しながら、早期配備に向けた作業を加速化することで一致した。」とホームページで載っていたのを読んだ。合意された中身について、具体的にはどういう内容で、どういった意味をもつのか。時期などについて、細かく合意をしたということか。

【小野防衛政策企画官】先般の2月の今年の日米首脳会談の中で北朝鮮の核ミサイル活動をふまえ弾道ミサイル防衛協力を進め、米軍のTPY-2レーダーを追加配備する方針で一致したということの日米間の両首脳の間で合意をしておるわけでございます。具体的にどういう形で、どのタイミングでという個別具体的な中身については、日米間の様々なやりとりの内容に関わりますのでお答えは差し控えさせていただきますが、あくまでもこういった認識のもとで日米として可能な限り早期に国内2番目のTPY-2レーダー配備を進めたいということで合意をしております。

【光永議員】具体的にお聞きいたします。私は、自衛隊経ヶ岬分屯地内で、中に入らせて頂きまして、その機能の説明をお聞きし、見せていただいた。その後、再度現地に伺った時に、最初に伺った時に比べ私が見た範囲ですが、配備計画地に工事用プレハブが設置される等、いくつか準備がはじまっているかのように見受けたが、事実としてそういう工事の準備が始まっているということはないのか。

【及川防衛局長】事前に今からそういうような事をやっているという事実はございません。あくまでも地元のみなさま方のご理解を得ながら進めたいと考えております。

【光永議員】日本政府は、防衛省はそう考えているけれども、アメリカとの関係においてはこの点はどうなのか。

【及川防衛局長】事前の工事等につきまして、米側も行っているという事実はございません。

【光永議員】ということは、工事について丁寧に説明し続けると先ほどお話があったわけだが、その話し合いが、合意なり判断なりがつくまでは何も着手しないという理解でよいか。

【及川防衛局長】私どもといたしましては、現在の日本の安全保障環境が非常に厳しい状況でございます。したがって、出来るだけ早期にこのレーダーを配備したいという気持ちには変わりありません。しかし一方で、地元の方々のご理解を賜ることも一方で必要でありますので、そこは丁寧に説明をさせていただいている。いずれにしても、早期にみなさま方のご理解を願いたいということで取り組んでいます。

【光永議員】そうであるならば、来年度の概算要求の時期が近付いているが、そこに計上しないということになっているのか。アメリカでは、Xバンドレーダー配備について、今年度予算はどうなのか。

【及川防衛局長】Xバンドレーダーの配備にかかる来年度の予算はどうかというご質問ですが、私どもは現

在のところ国の予算を計上するというのは、今のところ近畿防衛局として要望しているということとはございませんが、そこはどのような形で今後、レーダーをすすめるかという観点から今後、予算のあり方というのは様々な形で議論されて計上されていくことと考えています。また、米側がどのような予算を用意しているかという点については、私どもとしては承知しておりません。

【光永議員】最後にしますが、今の話、説明し理解得られるまで着手しないと言うのであれば、来年度概算要求や予算に計上されていくというようなことは絶対に認められませんので、そこは厳しく指摘しておきたいと思います。

また、今日は、浜田議員も含めて住民のみなさんから不安がたくさん出されているということを紹介させていただいたが、その不安に対してまともに説明できない。あるいはアメリカからの答えが無いだとかいうことも含めて調整中のことも多い。そういうことははっきりしない以上、配備ありきで進めるということは大問題です。なおかつ、最初の方で私は質問させていただきましたけれども、結局これはアメリカ本土を守るということを中心にした性格のものであるということはアメリカ自身が言っているわけで、そこに日本が協力していくということは非常に問題です。こういう計画は撤回を求めておきます。以上で終わります。